山崎郷土研究会報

NO. 98
13.9.5

兵庫県宍粟郡
山崎町教育委員会内
山崎郷土研究会
電話62－2000

# 路傍観察（一）

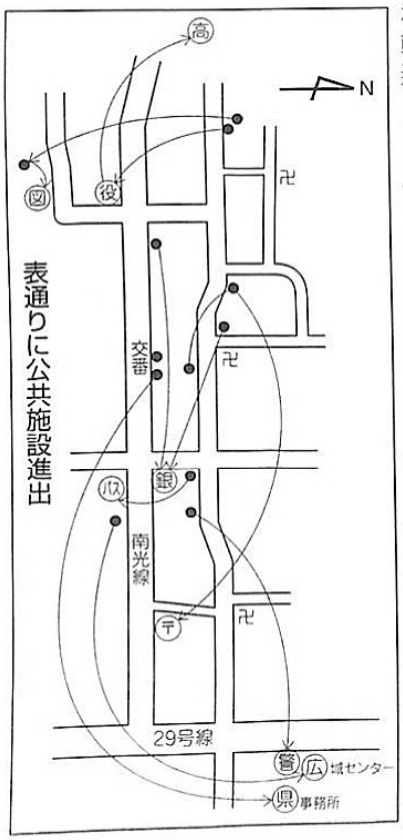
## 世紀の境を挟んだ考現誌

宇野正碩

### はじめに

筆者は本誌のNo88号から91号まで四回続けて《山崎町の変遷と今後》というレポートを発表して、町村合併四十年（平成七年）までの町勢の変化を概観したことがある。以来、五ヵ年を経過して、世紀の呼び名が変わる時代を迎えた。世紀の呼び名がかわるだけでなく、この小さな町にも記憶しておいてもよいような変化が起きている。巨視的に見るとほんの僅かな現象であっても、後になって思い返して見るとある時期を示す出来事であった、と思うかもしれない。

ところで、山崎町は通称最上山（別名尼が鼻）を挟むようにして東西に本町筋（山田町・本町・西町）、南北に因幡街道筋（東和通り・富士野町）の二本の道路がエル字状に交差した道路を核に発達してきたが、昭和二十年の敗戦以後町勢が拡大するのに伴ってエル字状道路がもう一つ外側に（国道29号線、県道山崎南光線）が誕生することとなり、続いて民家、商店、公共施設が新築移転新しい山崎町が生まれてきた。




表通りに公共施設進出

目次

①路傍観察（一）
—世紀の境を挟んだ考現誌— 宇野 正碩 1
②山崎町出土の二つの銅鐸 片山 昭悟 7
③山崎陣屋表門付近の写生画考 堀口 春夫 14
④京都七福神巡り（第二回）を終えて 岸本 正理 16
⑤山崎陣屋表門に史跡石碑建立 史跡部 18
⑥山崎町の歴史街道（五） 会報部 18
⑦奈良時代の鏡研究で片山さんに藤森栄一賞 会報部 20
⑧事務局だより 研修部 織金 20

## 変化した事象

### 一　自然災害を予測しての事柄

天災は忘れたころに来るという。播磨に住むわれわれには厭なことがある。それは活断層「山崎断層線」である。われわれはこの線上に暮らしていて何時なんどき活動が起きても仕方がないと教えられている。ことに一九九五年一月十七日を境にこの恐怖を背負って暮らしている。その上、鳥取西部地震は明日は我が身と恐怖の毎日である。

**○山崎防災センター**〔鹿沢65-3〕は災害時の対策一切を担当する施設である。避難所であり、食料・飲料水・被服類すべてを保管している。その上医療設備さらに平時には地震対策教育を受持ち地震体験の設備もそなえる。場所は県道山崎南光沿線で旧ジャスコ跡地。平成十二年に竣工した鉄筋五階建て密集した民家の中にありながら広い駐車場もある。

**○山崎夢公園**　町の東方で揖保川に近い。大正時代から郡是製糸工場があった。昭和三十五年からは、尼崎のオリエンタルメタルKKが工場をつくりカラートタンや電磁塗装を行っていた。景気低迷のなか、輸出不振で本社に統合になり、空き地を避難所を兼ねて公園にした。平時にはレクリエーション・アウトドア広場、花火・盆踊り広場、さつき・菊花展示場等なにでも活用する。また新役場庁舎にもなろう。

### 二　行政改革の影響

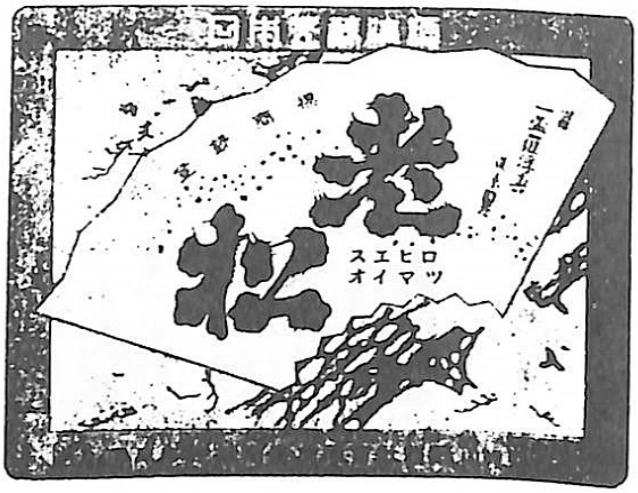
小さな政府ということがいわれる。予算が幾らでも増えて国民はその負担に耐えられなくなっている。僅かだがこんな節約がされたという例だ。国民は不便を被っているのだ。

**○森林管理署**　国道29号線の新設に伴い、いち早く新線沿いに鹿沢桜町38から移転して来たのは山崎営林署であった。宍粟佐用郡の旧幕府領や諸藩の所有林の管轄の不採算性が言われて、慌てて合理化を計画し規模縮小に出たようにみえる。今後は営利を目的にしないで森林管理のみに重点をおくもの。これが管理署の名称なのだ。広かった敷地を三分の一程に減らし跡地は売却したらしい。残りの土地に木造二階建ての事務所を新築した。新築管理署の用材は国産木材を使用、大黒柱と言うべき所に6m太さ40cmの宍粟杉を三本使用していると聞く。

**○法務局**　一般に登記所と言えば分かりやすい。不動産の売買を正式に記録しておく所だ。庁舎は八幡下にあった

が、建物が明治の裁判所の形態を残すものとして保存され、元の本多藩邸内に移築され民俗資料館として利用されている。昨年四月からは統廃合により山崎から姿を消して龍野へ吸収されていった。

**○山崎健康福祉事務所**　今年二〇〇一年になっての変更である。県行政機関の組織替えに伴い西播磨県民局が上郡町のテクノポリスへ変わることになり、従来、福祉事務所や保健所の業務の大半がこの県民局へ移り住民直結の部分だけが山崎に残り、福祉と保健業務をひとつにした事務所となった。県の出先機関の保健所と山崎町の保健センターとの二重行政の区別をするためのようである。




つぎは話題が古いが記録として上げておく。

**○職業安定所**　山崎でも随分お世話になったものも多い。いま龍野に移管された。

**○家庭裁判所・検察庁**　揖保川川べりにあったが、河川改修計画の区域内になっている。

## 三　銀行の合従連衡

**○みなと銀行**　山の国に海の名のつく銀行が誕生した。平成十三年一月一日からさくら銀行の跡を引き継ぐかたちでさくら銀行の建物にすっぽりはいって営業をはじめた。この銀行は以前は兵庫相互銀行であったものがみどり銀行に、さらに今回のさくら銀行の後釜の形をとっている。

**○さくら銀行**　神戸銀行が太陽神戸銀行に変わったと思ったら、三井太陽神戸に、さらにさくら銀行になった。山崎の建物もなくなった。これはみなと銀行の欄で申したとおり。生きているはずの銀行が看板降ろすのは不思議な感じがするものだ。有為転変というか、これが無常なのだ。

**○淡陽信用組合**　ダンヨウと読む。淡路の淡である。山崎にあって立正信用組合、つぎに山陽信用組合になって経営不振から淡路信用組合に合併して、今の名称となった。

## 四　量販店の動き

概観的に見ると国道29号の下三津と庄能あたりでの動きが慌ただしかった。事の起こりは営林署の動きに原因があったのかと思うが、そんな事だけではないのだろう。外部者にはどれが最初の動きだとは知りえぬことだ。

**○ホームセンター　アグロ**　まずホームセンター「いない」の動きから始まっている。同業のホームセンターアグロが「いない」

の後に移った。アグロは地元の資本で早い創業である。ホームセンターなどという呼び名のないころから家庭用品、金物、家電用品、花卉など何でも売っていた。敢えて言えば駐車場も狭く奥行きの無い、表通りに横っ腹を見せた店。これが二階建てで駐車場も広いホームセンターによみがえったのだ。次に広い敷地を持って一等地を確保していた営林署が急に敷地を失い同時に庁舎を取壊し木造二階建てに替わって森林管理所に縮小された。そもそも小さな政府を揚げての変革が遂行されているのかと問いたくなる。地元の手持ちの用材を使用し、立派な太い杉を三本大黒柱風に使ったと聞いたが、市民感覚では惜しい感じがする。またその上に拍車を掛けたものにつぎの施設がある。

**○Aコープ・旬彩蔵**　営林署の跡地が農協に渡りエーコープというスーパーになり旬彩蔵という野菜市場になったことである。これも慌ただしい世紀境を一層賑やかなものにした。

## 五　量販店連衡

**○スーパーカワベ**　ホームセンターアグロの北側のたんぼを埋め立ててカワベが来ると噂が早くから流れていた。平成十二年十一月にホームセンターアグロと道路一つ隔てて三津一六七に、庄能でスーパー営業中なのを止めて29号線沿線に進出したものである。もともと山陽線沿線にあって農機具の製造販売をしていたそうである。宍粟郡内にも河部農機印の付いた機械を見掛けたものである。農家と特約しているので野菜類は豊富だという。手作りのパン店「アイドリー」がある。チェーン店は相生本店・龍野店・網干店・太子店などがある。

**○本家かまどや**　さきにも述べたがカワベと同時期に新規開業した。番地も同じだ。全国規模のチェーンの店をもち二、五八八店と聞く。姫路事業本部管轄でも加古川・姫路・播磨に六十二店がある。独立経営・委託経営・委託店長を募集している。

**○たいこフーズ**　弁当の話がでたので弁当の話を続けよう。文字通りロードサービスで弁当を売っていたのは新宮の醤油製造会社ブンセンが片手間のようにしてサラヤという名で電話ボックス並の売店で売っていた。これが初めで他の企業が参入して弁当屋合戦となってきた。学校給食が始まり子供の弁当が不要になり、家庭でのサラリーマンの弁当が作られなくなった。この事情に敏感な企業が全力投球で市場参入に割り込み始めたのだ。たいこフーズは加西市東條町二三五の株式会社で播磨一円に商圏を持ち拡大

し店頭売りのうどん・おむすび・丼もの・中華もの、仕出し物・ほかに地区ごとの自治会・婦人会・老人会等々の注文をうける。山崎町内にも一号須賀沢・二号城下・三号杉ヶ瀬に支店がある。播磨一円の店舗数は数えきれないほどだ。

**○ゴダイドラッグ**　スーパーカワベの建物の南半分を占めるほどの格好でかまどやにくっつけて薬局が誕生した。ゴダイは姫路駅前二六八に本店があって薬品販売の四十一支店があり山崎支店は四十二号店であるという。先般ナカドラッグが開店したばかりなのだ。

ところで隣のアグロ店も視野に入れると新設の三店を含めて大々量販店の出現である。なにごともこじんまりとまとめる山の国宍粟ではビックリ仰天するほどのできごとである。

**○ファッションセンターしまむら**　山崎町千本屋　山崎―新宮線の店　最近の広告折込みは多い。資本力は大きいのだろう。新聞の株式欄の〈しまむら〉のことだろう。婦人ものの衣料品中心で埼玉県大宮に本部。全店舗七〇〇店記念特別セールもしていた。チラシには福崎・龍野・太子・飾磨東店だがよくみると氷上・加西・稲美店があり、時には岡山県の見知らぬ市の名があることもある。また、寝具、リビングフェアーの広告もある。

**○フォレストピアしそう麦酒館**　新規店舗の誕生である。山崎町千本屋二三二―一　開業〈二〇〇一年〉〝酵母の偉大な、繊細な営みを人の手の営みで掬いとり、見守りビールを造り続けています。〟と言うメッセージを発して地下六・九ｍからの深層水＝宍粟の森のエッセンスから地ビールを醸造販売している。これより早く、郡内一宮福野でハリマ農協が播州麦酒をブラッセリーというビアレストランを開いているのに刺激されてといえなくもない。地下水の優秀さが大いに力となっているようだ。レストランの建物は目を驚かす。

**○花屋いなざわ**　フォレストしそうの入口に付属施設ながらに花卉・植木店が出店している。

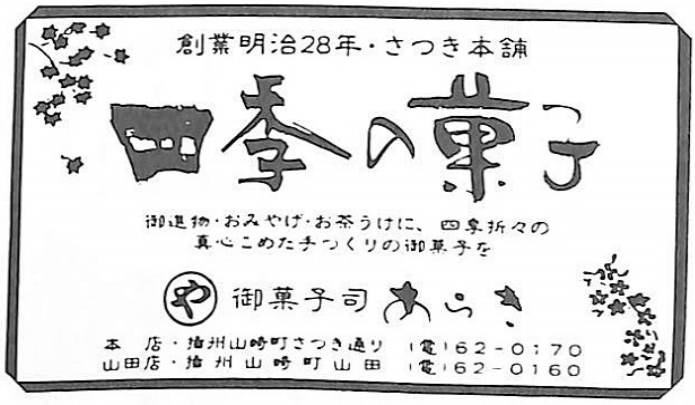
**○ローソン山崎加生店**　山崎町加生一六四　平成十三年開店、昨年十月ころローソン神戸東事務所から新しいビジネスに挑戦者を募集していて山崎杉ヶ瀬水ヌキ二八八に開店しているから同時期に近い開店とみる。

**○ファミリーマート山崎インター店**　山崎町山田一一一―一　平成十三年二月開業、名の通り中国道入口に最も近いコンビニで最も新しい開店である。

**○時遊空館**　沈滞した旧商店街の町筋をどのようにして活性化させるかは、どの地方の町にも共通の課題である。山崎町で案出された

一つがこれである。平成十二年春に町商工会の後援で会館した。別段、物品を販売する目的ではなく、いわば寂しい通りを歩いてほしいのだ。人集め・人寄せのイベントらしい。というのは町の表・裏通りにはあまり人に知られない趣味・技能・才能をもった文化人、偉人、技術者が隠れておられる。そんな人やグループに表側に出てもらいたいのだと推測する。〇〇工房・〇〇作品展・MADなど絵画〔水彩・洋画・日本画〕書道、陶芸、彫刻、藍染などの会を開いている。

旧商店街では古くなったアーケードを外して道路のカラー舗装をした石畳みの道にした。中央商店街十三軒は感謝セールとして月一回スピード三角籤の日を行っている。また商店連合のスタンプ会をしている。古い史料だが参加商店が減少している。



| | | | |
|---|---|---|---|
| 青果食料品 | 十三軒 | 残り十一軒 | |
| 電化製品 | 四 | 四 | |
| 鮮魚精肉 | 七 | 六 | |
| 文具カメラ | 五 | 四 | |
| 茶和洋菓子 | 六 | 五 | |
| 種苗園芸 | 一 | 一 | |
| 薬局薬店 | 五 | 五 | |
| 玩具 | 一 | 一 | |
| 呉服寝具紳士服 | 七 | 六 | |
| 婦人服 | 十三 | 十一 | |
| 靴レジャー用品 | 十一 | 七 | |
| 化粧品 | 九 | 五 | |
| 時計 | 三 | 二 | |
| 子供服 | 二 | 〇 | |
| 進物陶器 | 三 | 三 | |
| サービス | 四 | 三 | |

（スマイルシートより）

# 山崎町出土の二つの銅鐸

片山昭悟

## 一、はじめに

山崎町内では、いまから二千年前の弥生時代の二つの銅鐸が出土しています。

一つは江戸時代の寛政二年（一九七〇）に出土したとされる須賀沢銅鐸です。もう一つの青木銅鐸は、昭和三十五年（一九六〇）十二月に出土しています。この銅鐸は兵庫県文化財考古資料として指定されて、文化庁所蔵で、山崎町歴史郷土館でみることができます。なお、銅鐸の出土地も、史跡として兵庫県文化財に指定されています。

須賀沢銅鐸については、江戸時代の平田篤胤『弘仁歴運記考』と松平定信『集古十種』に記録があります。この銅鐸は、現在不明ですが、絵図によると、近畿式銅鐸です。須賀沢銅鐸のふたつの絵図は四区と六区と異なる絵図です。同じ銅鐸でありながらこのように異なります。

銅鐸は、弥生時代の「カネ」で釣り鐘の様な形をしたもので、六千年前の中国の鈴や朝鮮半島の呪術的な銅鐸が起源とされ、祭りの道具か、楽器に使われたのでしょうか。いまだに何に用いられたのかはっきりわかりません。

銅鐸は、近畿地方を中心に、中国、四国、九州、中部、東海地方に分布し、全国で約五百七十例の出土や絵図などが伝わっています。うち出土は約四百八十例です。一九九六年十月十四日に島根県大原郡加茂町の加茂岩倉遺跡で三十九個の銅鐸が出土しています。兵庫県では、神戸市の桜ヶ丘銅鐸が知られています。

## 二、青木銅鐸について

青木銅鐸は、昭和三十五年（一九六〇）十二月十四日に山崎町青木より出土しています。

銅鐸は総高三十一・七cm、重さ一・六kgあります。扁平鈕で、渦紋を施し、鰭に飾耳が一対あります。「外縁付鈕２式四区袈裟襷文」とされ、「聞く銅鐸」にあたります。

紀元前一世紀頃の弥生時代中期の銅鐸として貴重な資料です。

この銅鐸の特徴は、銅鐸の紋様が表面と裏面と別々に描かれています。表面（仮にA面）には横帯と縦帯で交わる銅鐸の身の四区の袈裟襷紋（お坊さんの袈裟から呼ばれています）に、下区に四頭渦紋（かつては双頭渦紋と呼ばれていました）

呉服とジュエリー
とくさや
本店　本町（さつき通り）62-1680
咲ランド３Ｆ呉服のとくさや　63-0568
〃　２Ｆジュエリーとくさや　63-0557

が描かれています。裏面（仮にB面）は、四区の袈裟襷紋となります。舞孔、鐸身には型持穴が二個、飾耳が見え、やや反りがあります。鰭には渦紋と内向きのR鋸歯紋（三角の右下方向の斜線）がかすかに見えます。鈕には外より内向の鋸歯紋（L鋸歯紋・三角の左下方向の斜線）、内向の鋸歯紋（R鋸歯紋）、連続渦紋の紋様が見えます。銅鐸の二つの紋様の鋳型が用いられたのでしょう。

青木銅鐸については、『神戸市桜ヶ丘銅鐸・銅戈（解説篇）』兵庫県文化財調査報告書第一冊昭和四十四年に詳しく紹介されています。

『特別展　銅鐸の世界展―地の神への「いのり」』によると、古段階新式（外縁付2式）四区袈裟襷文、「古代の銅鐸の鈕にくらべ、菱環部内側が扁平化し、各種の文様が施されるようになる」と紹介されています。青木銅鐸は、文化庁所蔵であり、山崎町歴史郷土館に展示されています。

兵庫県指定美術工芸品　考古資料
青木銅鐸　四区袈裟襷文銅鐸
所在地　山崎町鹿沢81番地
所有者　文化庁
指定年月日　昭和五十二年三月二十九日
県指定　史跡　青木銅鐸出土地　一二五六㎡
所在地　山崎町青木一〇二〇番地三

所有者　梶間公平
指定年月日　昭和五十二年三月二十九日

青木銅鐸は、山崎町青木中井小字小谷一〇二〇番地三の梶間公平氏所有の山林を昭和三十五年（一九六〇）十二月十四日に谷林新氏がぶどう園開墾中に偶然表面直下で埋もれた銅鐸を発見されたものです。

県道山崎・南光線の北約三〇〇ｍの位置で、標高約一四〇ｍの丘陵中腹斜面で発見されました。

青木銅鐸の出土地を平成十三年六月二十一日に訪れ、地元の福井松男さんより聞き取り調査を行いました。青木銅鐸の出土地の北背後には通称「ばひろ山」と「寺尾山」と呼ばれる山があることと、ぶどう園からは弥生式土器が出土したとされることをご教示いただきました。

銅鐸出土地は、昭和五十二年三月二十九日に兵庫県の文化財に指定されています。現地には案内板が立ててあります。

現状は、青木字小谷の屋根の南東に面する谷間の東南向き丘陵斜面です。

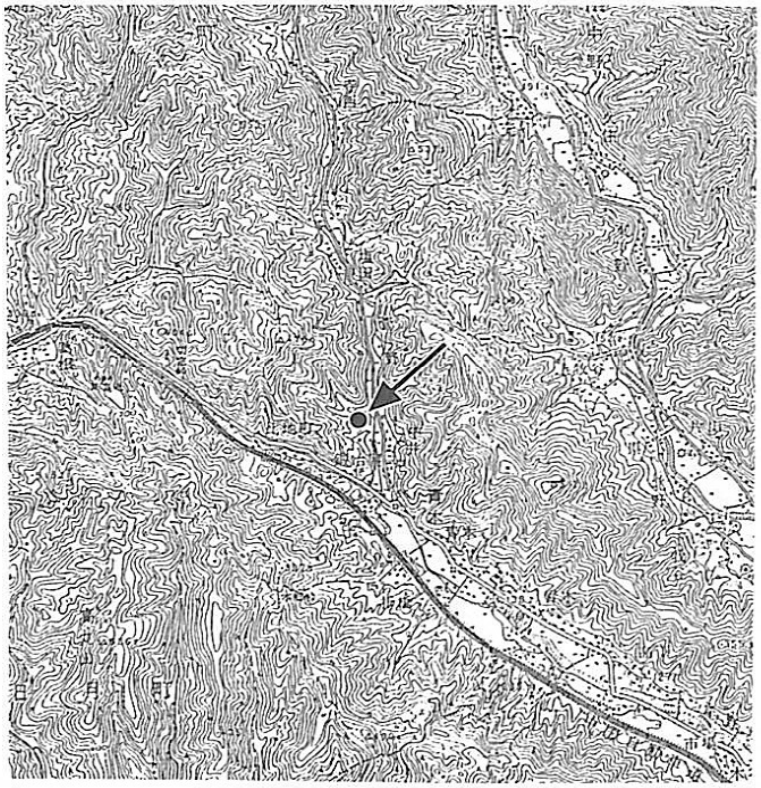
平成十三年六月二十六日に、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターの中川寧氏と島根県立博物館学芸員錦田剛志氏が来郡され、午前九時より山崎町歴史郷土館の青木銅鐸の見学と、青木銅鐸の出土地と須賀沢銅鐸の出土地を踏査されました。

銅鐸の出土地は、二つのタイプがあります。青木銅鐸のように谷間の集落から離れた丘陵の斜面に意図的に埋納されたもの。

もう一つは、集落に近く眺望の良くきく丘陵の台地上に出土したもの。

青木銅鐸出土地には露出した石が認められます。

青木銅鐸は、出土地がわかる弥生時代の貴重な資料です。



地図１　山崎町青木銅鐸出土地

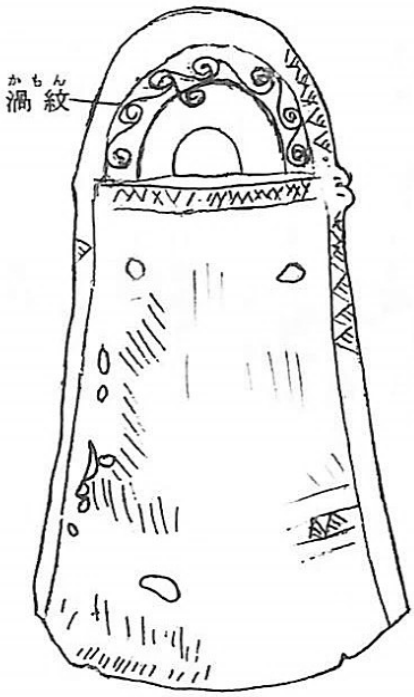



図２青木銅鐸概念図２

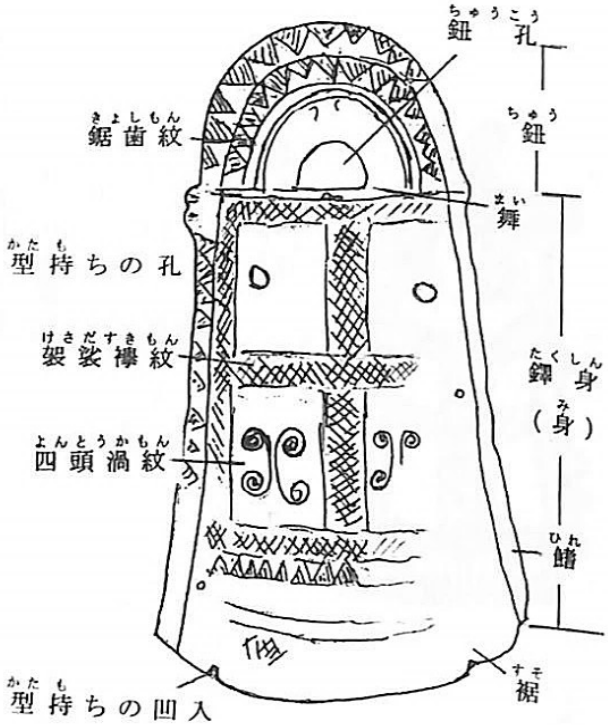



図１青木銅鐸概念図１

（文化庁蔵）山崎町教育委員会

## 三、須賀沢銅鐸について

須賀沢銅鐸については、江戸時代の資料に松平定信『集古十種』と、平田篤胤『弘仁歴運記考』と二つの記録があります。

山崎町須賀沢の山中より寛政二年（一九七〇）に葛ノ庄須賀村の農民が掘り出したもので、松平定信『集古十種』には山田安貞の所蔵と記されています。

絵図は、鮮明に描かれていますが、突線鈕式四区袈裟襷紋の図です。

江戸時代の松平定信『集古十種』の原本には、二ページに別れて載っています。

当時の銅鐸は、普通六区の袈裟襷紋であり、『弘仁歴運記考』の図は、六区袈裟襷紋の図であり、六区袈裟襷紋が正しくおそらく『弘仁歴運記考』の図のほうがより須賀沢銅鐸であり、同じ銅鐸でありながら異なるきわめてめずらしい資料です。

須賀沢銅鐸は、六区袈裟襷紋と考えられます。銅鐸の身には六区の袈裟襷紋が、下には内向R鋸歯紋です。鰭には内向の鋸歯紋です。鋸歯紋は左右が異なります。左はL鋸歯紋、右はR鋸歯紋で飾耳がみえます。

『集古十種』に描かれたものとは、反対の面の図があります。『弘仁歴運記考』によると、山田安貞の『古宝鐸記』では「現高三尺余、口径一尺余、重量四貫八百目」と記載されています。

なお、須賀沢銅鐸は現在住所については不明であり、出土地については、現在の山崎町須賀沢地内の山中です。

鐸身は六区の袈裟襷紋で、楕円形の突線鈕と鰭に大きな双頭渦文の飾耳を三個付けています。鰭の両側に三対の飾耳を付けています。約一〇〇cmの銅鐸です。

この銅鐸には、装飾が顕著であり、いわゆる近畿式銅鐸であり、「見る銅鐸」の特徴がみられます。

須賀沢銅鐸は記録のみが残ることから宍粟郡の銅鐸を考える上で貴重な資料です。

『集古十種』　寛政二年　松平定信
銅器の部

姫路家臣山田安貞蔵
寶鐸図　播磨国宍粟郡
須賀山中掘地
所得
高三尺餘、口径一尺餘、

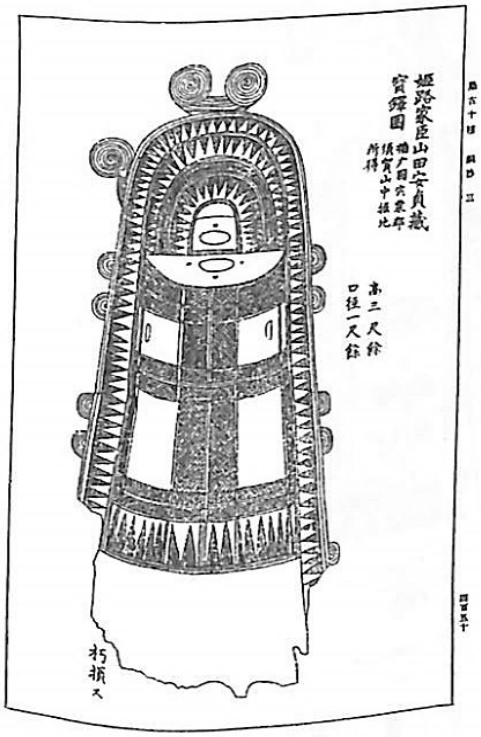



図３松平定信『集古十種』

平田篤胤『弘仁歴運記考』によると

寛政二年三月。播磨國宍粟郡葛ノ庄須賀村の山中より。掘獲たる銅鐸なり。此は我が相識れる山田安貞と云フ人の所蔵なり。其ノ図左の如し。

高サ　二尺二寸許　口径一尺七分　舞　七寸　舞の縦孔二寸八分　横二寸分　鰭の裾左　一寸九分　右　一寸三分　型持ち孔縦一寸三寸　横五分　裾缺

以上が銅鐸の絵図に記載されています。

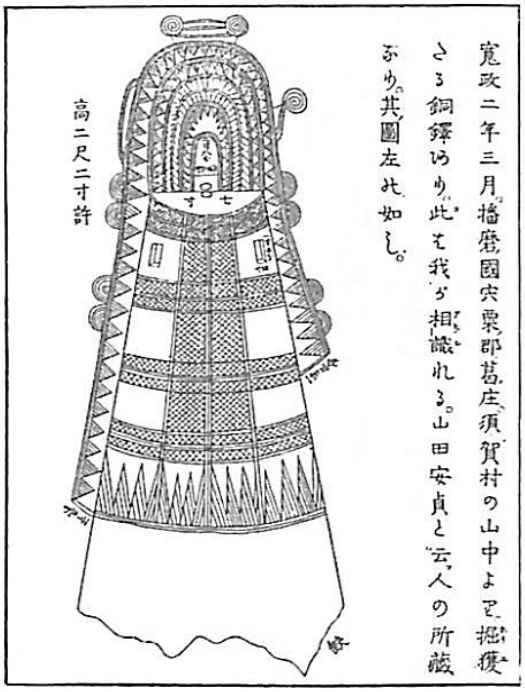
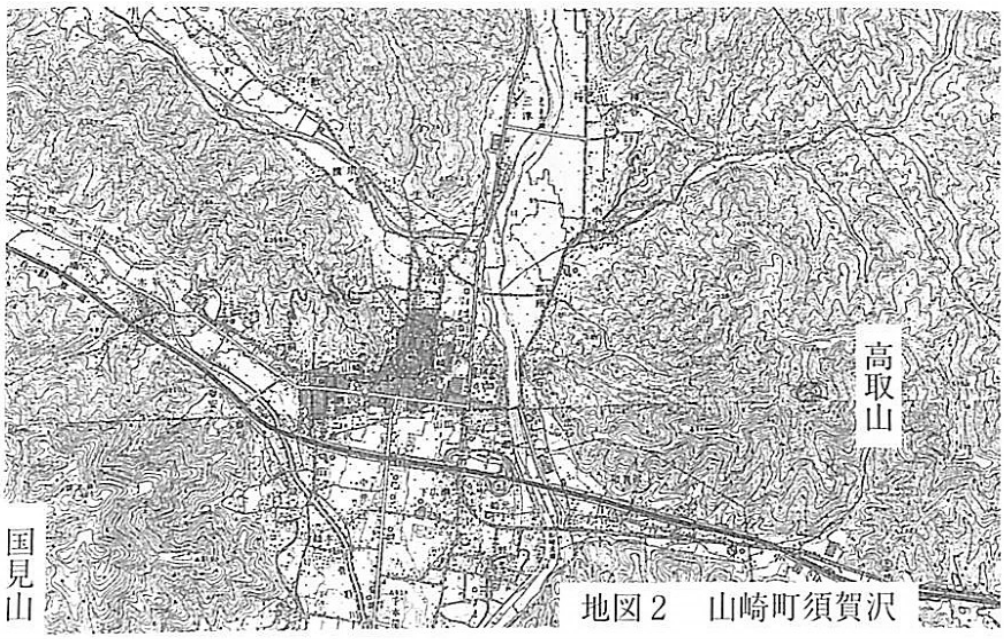



図４平田篤胤『弘仁歴運記考』

『古宝鐸記』には

「山田氏　古宝鐸ノ記云。右高サ　三尺餘ノ、口徑一尺餘、重サ四貫八百目。蠹腐爛　不可重　今随其缺損ニ量ルニ之。高サ二尺二寸許リ。紐ノ高サ　一尺八、九分　幅九寸五分　縁闊一寸五分。口ノ径リ一尺七八分許リ。飾紋之妙不可カラ名状フ。寛政二庚戌ノ年三月。播磨ノ宍粟ノ郡。須賀ノ山中。土人掘テ地獲タリ之蓋シ数千歳之物也。

また文化十二年五月十七日に同國佐用ノ郡下本郷より掘出せるも。大抵同形にて稍小なり。また、寛政四年閏二月。参河國渥美ノ郡神戸ノ郷。谷ノ口村と云フ處つより。三つ掘出タリ。其ノ図を見るに。一ツは山田氏ノと大抵相ヒ似て。高さ三尺四寸。重さ九貫目とあり。餘りの二つの図左の如し。




地図２　山崎町須賀沢

寛政二年三月播磨國宍粟郡葛ノ庄須賀村の山中より銅鐸が出土していますが、現在の宍粟郡山崎町須賀沢の須賀沢銅鐸は、「山中」より出土したとされます。どこから出土したかは不明ですが、二つの江戸時代の絵図のみ見えます。この出土地について、地形的にみて、高取山がご神体のようで出石の愛宕山に続く尾根が続き、細長い谷間がいくつにも分かれています。銅鐸出土地の重要なポイントであろうと思います。

須賀沢の高取山を中心に出土地を考えてみる必要があります。夏至ごろには東に太陽が登る山であり、西は国見山に日が沈む。高取山の山なみの出石の愛宕山に続く地勢が地理的にも非常にいいように思われます。古代から崇拝されていたのでしょう。銅鐸の時期からして弥生時代後期（二世紀頃）の近畿式銅鐸でみる銅鐸です。この銅鐸を所持していたのは、集落は断定できないがおそらく鹿沢の台地上でしょう。

須賀沢銅鐸よりも時期的に遡る「聞く銅鐸」の青木銅鐸も鹿沢の台地上の集落と関連するのでしょう。

須賀沢銅鐸の最近の資料を紹介します。

山崎町須賀沢銅鐸については、天理大学附属図書館蔵の太田錦城『古銅寶鐸記』（旧清野謙次収集資料）にみられます。

山崎町須賀沢銅鐸については、平田篤胤『弘仁歴運記考』、松平定信『集古十種』はことなる銅鐸が描かれ、天理大学附属図書館蔵の太田錦城『古銅寶鐸記』は銅鐸の特徴を丁寧に描いています。身が六区の袈裟襷紋　飾り耳に透かし孔が明確で、欠損部分もより正確です。

江戸時代の絵図にしか見られない銅鐸であり、銅鐸が現存しているか所在については不明であり、今後の調査で解明できればと思い、今回、出土地が山崎町の須賀沢であり、記録や地形などを含めて概略を紹介させていただきました。

なお、太田錦城『古銅寶鐸記』については、天理大学附属図書館より平成十三年七月七日に写真提供いただきました。

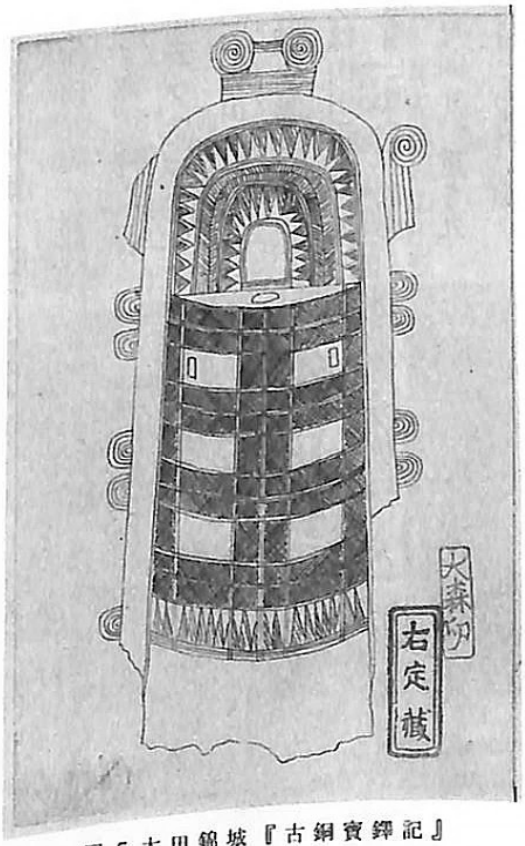
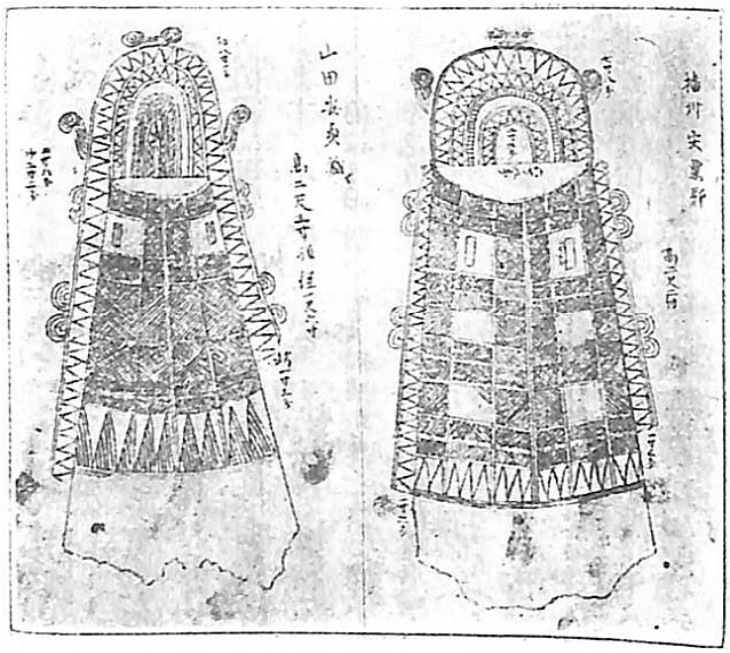



図５太田錦城『古銅寶鐸記』
（旧清野謙次収集資料）
天理大学附属図書館蔵

このほか須賀沢銅鐸については、梅原末治『銅鐸の研究　資料篇』（昭和二年）昭和六十年の第三十七圖　異本「古今要覧」所蔵播州銅鐸圖によると、一つは「播州宍粟郡」と「山田安貞」の銅鐸の図がみえます。



第三七圖　異本「古今要覧」所載播州銅鐸圖

図６梅原末治『銅鐸の研究　資料篇』
（昭和二年）昭和六十年　第三七圖　異本「古今要覧」

播磨は弥生時代の「銅鐸の道」として知られ、山崎の周辺では、飾磨郡夢前町の神種銅鐸、一宮町の閏賀銅鐸、千種町の岩野辺穴尾銅鐸、佐用郡三日月町下本郷の銅鐸、銅鐸をまねた土の銅鐸が山崎町田井遺跡で出土しています。このように西播磨の中国自動車道沿線を中心に出土しています。

なお、青木銅鐸は、文化庁所蔵でありますが、山崎町歴史郷土館に展示されているのでこの機会に兵庫県ではじめて出土した田井遺跡出土の銅鐸形土製品とともにご覧いただければと思います。

## 四、まとめ

山崎で弥生時代のなぞの銅鐸が二口も出土しています。山崎断層として全国的にも知られる活断層があること、弥生時代にも地震があったのではないかと推定され、銅鐸は、農業祭器とされますが、地震を鎮めるための祭器にも用いられたのではないかとも思われ、これらのことについて今後解明できればと思っています。

外科・内科
山中医院
院長　山中陽一
山崎町西町・TEL⑥②0036

# 山崎陣屋表門付近の写生画考

堀口春夫

二枚の写生画を紹介します。この写生画はどちらも幕末の頃に遠藤源助が描いたものです。本多藩記念館所蔵のもので、このほかに六枚、同じタッチで陣屋周辺の風景が忠実に描写されており、幕末の陣屋の様子を知る上で貴重な史料です。現在は、町立歴史郷土館で保管展示されています。

上側の絵は、表門の外枡形の角（方向としては北西）から見た陣屋表門の風景です。門の脇に立つ門番からして門の高さを想像してみてください。また、門の奥には番所が見えています。

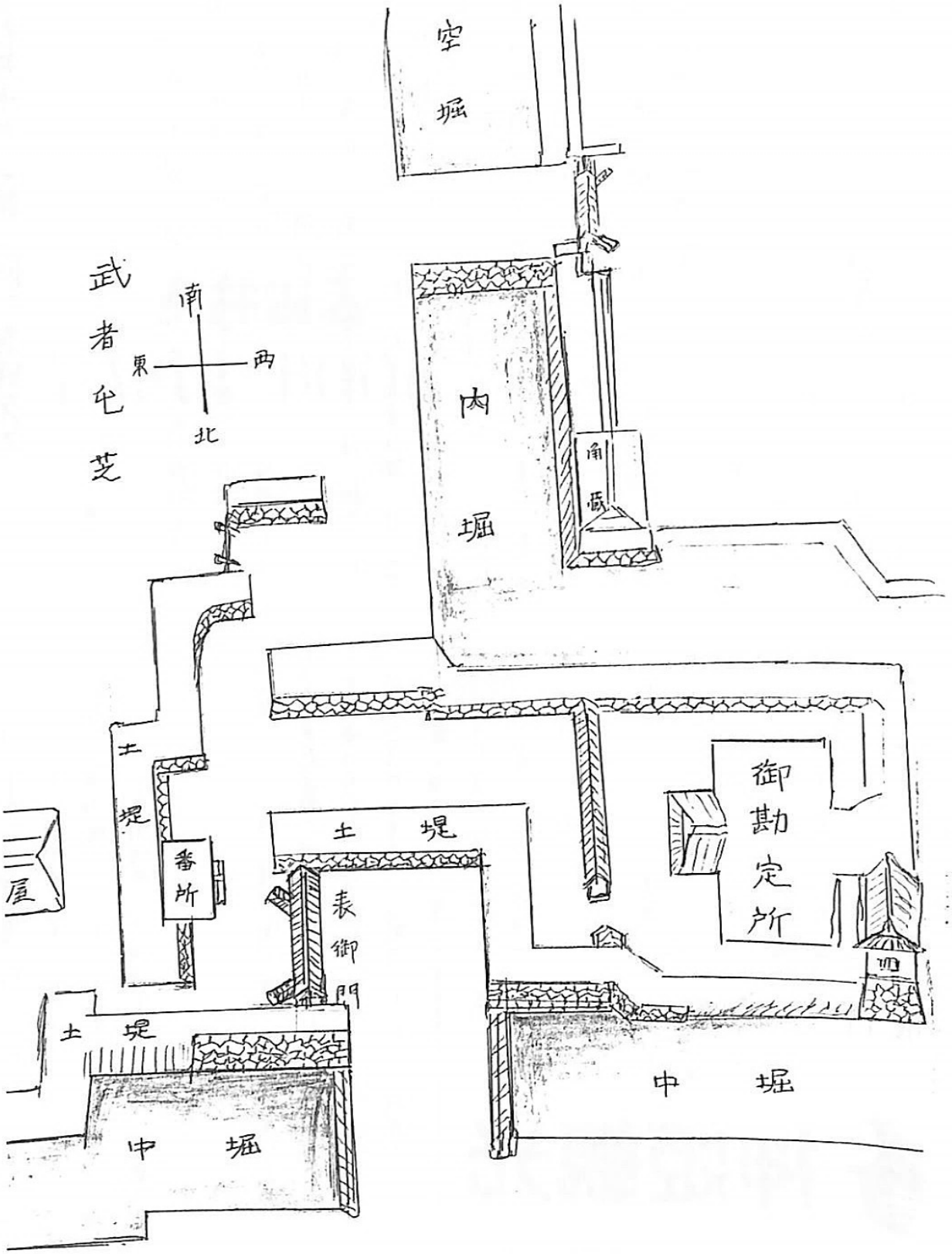
下側の絵は家老武間家の門前から陣屋大手口をのぞむ風景です。（武間家は現在の町役場がある位置）方角としては南方をのぞんでいます。絵では陣屋表門の石積みや表門の屋根が見え、また、その手前には中堀やそこに架かった橋と欄干が見えます。今では見る影もありませんが、表門が今の山崎小学校の校門付近となります。

武家屋敷と町屋を分離していた諸門が取り払われたのは、明治七年（一八七四）全国の城郭取り壊し令が出されたときで、石積みの土堤が取り除けられたのは、明治十七～十八年頃と聞いています。小学生が石垣から落ちて怪我をしたことが問題となったとかで、学校としては土手が不要のものとして取り壊されたということです。

また同じ頃、土堤の土を利用して、裏門（現在の小学校体育館東付近）の前から城下への新道路を造るための埋立てが成されたのもその頃と聞いています。遠藤亘氏が家中の者たちの反対を押して、私財を投じて工事にかかわったと云われますが、現在の中国道付近までで財が尽き、（「遠藤坂」の名を残しました。）その後、初代町長の岡本新氏や町の有志が引き継ぎ、御名のあたりまで新道路ができたのは明治末年頃と聞きます。戦後は、道幅も拡げられ立派な産業道路となっています。その昔は、田町（現在の山崎町山田）より揖保川沿いを通って比地ヶ屹（ホキ）をとおり新宮へ出るのが龍野道と言っていました。

山崎陣屋表門付近

山崎陣屋大手口付近




山崎陣屋表門付近の図

# 京都七福神巡り（第二回）を終えて

岸本正理

「京都七福神巡り」の旅行を企画したのは、昨年の春の旅行の後だった。故垣口研修部長の後を受けて新しく研修部長になられた織金さんの発案によるものだった。二回に分けて七福神ゆかりの寺社を今回（五月十三日）で巡り終えた。

織金さんは、前回も今回も事前に綿密な下見をされ、観光会社がとても考えてくれそうもない、一般には、あまり知られざるコースを考えて、会員たちを案内してくださった。

旅行が終わって二、三日してから会員のMさんにお会いしたときの話に、東寺はテレビではしばしばお目にかかり、また京都へ出向くときもその前を幾度か通り過ぎたこともあったが、今回はじめて境内に入り、金堂や五重塔等を間近に参拝することが出来て本当によかったと感想をもらされたが私も同感だった。同じように感じられた方々も多数あったと思う。

また、昼食場所に黄桜酒造のレストランを選んだのも、見学場所の一つである寺田屋へ歩いて数分のところにあって、よくこんなおあつらいの場所があったものだと感心させられた。

さて、旅行は、このところの晴天続きで、この日も天気に恵まれ、しかも日曜日のこととて道路の渋滞もなくすいすいと車は走り、午前九時三十分には東寺の駐車場に着いた。

ここは、七福神の一つ毘沙門天を祀る霊場である。東寺のシンボルはなんといっても五十七メートルの高さを持つ五重塔で、その偉容は京都の街のシンボルでもある。

金堂には、桃山時代の仏師康正作の薬師三尊像・十二神将像が安置されている。それらの仏像は比較的新しく金色に輝いていた。

七福神の毘沙門天は、国宝御影堂に安置されている。無量の知恵で学業成就や安産の信仰の神である。

次に鴨川の東の川端通りを北上して中京区にある革堂へ参った。ここは七福神の一つ寿老人を祀る。寿老人は、長寿を授ける神で、鹿を連れ、先に巻物をつけた杖を持っている。革を腰につけていたので革堂という名がおこった。

車は、近くの丸太町通りで停めて待っていてくれた。そこを出発して一路堀川通りを南下して伏見に着き、黄桜酒造へ行った。その中に黄桜酒造の酒蔵を改造したレストランがある。天井なども倉

旅行・観劇・航空券
すぐお応えいたします
神姫観光
〒671-2576 兵庫県宍粟郡山崎町鹿沢68
（神姫バス山崎待合所内）
TEL(0790)62−7588
FAX(0790)62−7589

庫様式の建物だが、それを巧く生かして感じのよい造りになっている。料理も和食のあっさりしたお弁当で都会的なセンスがあり、味も良かった。そこは、バスが二代駐車できる広場があり、もう一台よその車と私たちの神姫バスと二台並んで駐車していた。そこから歩いて寺田屋はすぐだった。昼食後二時まで約一時間半ぐらい寺田屋の見学を含んで自由行動、時間がたっぷりあってのんびりと出来た。黄桜と寺田屋との間に南北に通っている小路は竜馬通りといってお土産屋や果物屋やブティック等小さな店が並んでいた。

寺田屋へ行った。ここは、幕末のころ京都と大阪を往来する人々の舟宿で勤王の志士たちがここを常宿としていた。その人々を女将お登勢がよく面倒をみた。京都所司代の幕吏に襲われた坂本龍馬はじめ志士たちを浴衣一つで急を報せ急場を救った俗に言う寺田屋騒動の一つの主役お龍（後龍馬の妻となる）を私はお登勢と混同していたが、お龍とお登勢は別の人である。寺田屋の庭の一角にお登勢明神として小さな祠がある。その由来書の立て札に次のように記してある。

お登勢明神
由来がき
坂本龍馬とお龍さんを
結んだ寺田屋の女将お登
勢は百年祭を記念に神と
祭られ将来の若き男女の
守り神となりました
史　蹟
寺田屋保存会

最後に宇治の黄檗萬福寺を訪ねる。萬福寺は中国から渡来した隠元禅師が開いた中国風のお寺で、建物の様式も中国式になっている。総門左脇に黄檗宗大本山萬福寺の石柱が立っている。総門をくぐり少し進むと天王殿があり、中を覗くと暗い堂宇の中に金色の布袋像が見える。弥勒菩薩の化身とされている。

これで七福神の全部を巡り終えた。昨年秋に六波羅蜜寺を皮切りに、恵比寿神社、松ヶ崎大黒天、赤山禅院の福禄寿とまわり、後半は、今回の東寺毘沙門天、革堂の寿老人、萬福寺の布袋尊と巡り終えたわけである。

心のゆとりのおてつだい
安井書店
YASUI BOOKS
本　　店　TEL(0790)62-0700
さつき通り　FAX(0790)62-2117
ブックランド店　TEL(0790)64-2051
山崎町中井　FAX(0790)64-2052

# 山崎陣屋表門に史跡石碑建立

史跡部

このほど、当会では山崎小学校校門付近に、「表御門跡」の石碑を建立しました。設置にあたっては、教育委員会や小学校のご協力をいただきました。

〈紹介文〉

此の門は松平氏三代までは、搦手（からめて）の裏門であったが本多からは表御門となり、槍を立てたまま通る事ができるほどの高さの門であったので、諸門の中では一番大きく通称大門と言った。

門を入ると斜め前に番所があり、その前を進と、内堀の前に出て紙屋門に通じる。枡型土堤の裏を右に折れて行くと勘定所（今の図書館）があった。何れも防禦上石積みの屈折があった。

きれいなカラープリントの店

Specialty Camera Shop
コーエーカメラ

本店　宍粟郡山崎町東鹿沢 26-3　☎62－2089
フリーダイヤル　☎0120－440－990
FAX 0790－62－7429
TEL 0790－63－0533
咲ランド店

# 「山崎町の歴史街道」（五）

## ―山崎町の史跡めぐりをしませんか―

史跡部

### 23　旧因幡街道と山田の「道標」所在　山崎町山田

山崎は古来から山陰・山陽を結ぶ最も主要な地点で、今日の国道29号線は、昔は因幡街道と言われた道です。昔の道は、東和通りを南下し、総道神社から東へ折れ、今の29号線の所で少し南へ下って、また東へ折れ、稲垣神社の前を通り、揖保川沿いを南下し、「船元の渡し」から船で須賀へ渡って安志・林田を経て姫路へ達しました。

その途中、現在の29号線から稲垣神社へ向かう入口の所に、笠塔婆の形をした「道標」が立っています。

この「道標」は旅人の安全を祈願して建てたものと思われます。

「道標」には　右　志ん宮　たつの　あぼし　むろ津　道
左　あんじ　はやし田　ほうでう　ひめじ　道

と深く彫り込んであり、また、刻字も「みかん彫り」と呼ばれる高度な技法がとられています。

### 24　「船元の渡し」と「下座場」所在　山崎町船元

江戸時代は、揖保川には城下防衛のため橋を架けず、渡し船で

往来しました。そのため因幡街道を行く者は、この「船元の渡し」（須賀の渡しとも言う）を利用しました。

藩主の参勤交代の時はこの渡しを利用したので、藩士たちはこの渡しまで行き、船着き場の少し上手の街道脇の「下座場」で見送ったということです。

「下座場」は今も「船元の渡し」の少し上手、街道筋に広さ10アールほどの一段低い所があり、昔の痕跡があります。

なお、渡し舟は昭和の中頃までありましたが、現在はなくなっています。

**25　千本屋廃寺跡**　所在　山崎町千本屋貴船神社北側

「幻の千本屋廃寺」跡としてごく一部の古老の間に伝承されていました廃寺が昭和52年度から54年度まで、3次に渡り発掘された結果、現在の貴船神社の北側にある薬師堂の周辺の田から、建物の祭壇や築地跡と思われる痕跡が見つかり、その存在が確認されました。また、その付近から鴟尾（しび）や古瓦、円筒形の塔瓦そして弥生土器が発見され、特に直径6センチメートルの小型丸瓦は珍しく、この廃寺の特徴をそのまま残しています。

これらのことから千本屋廃寺は、奈良時代から平安時代に存在したと考えられ、当時、因幡・美作への交通の要地でもあり、文化の中心でもあったと理解されます。

なお、廃寺跡から発掘された古い瓦などの遺物は、歴史資料館に展示してあります。

**26　比地・金谷条里制の遺構**　所在　山崎町金谷　南中学校南側町道

条里制とは六四五年の大化改新に際して行われた古代の土地区画制度であり、当時班田収授を施行するにあたり、土地の整備が行われました。その遺構が昭和の末期あたりまで残っていましたが、圃場整備事業によって遺構はなくなりました。

今は遺構碑だけが山崎南中学校南側の町道に建立されています。

なお条里制の遺構は、この辺りの他に中井・川戸・宇原にもあります。

# 奈良時代の鏡研究で片山さんに藤森栄一賞

会報部

本会の会員である片山昭悟さんが、本年六月三日、長野県松本市で開かれた長野県考古学会総会で藤森栄一賞を受賞されました。

この藤森栄一賞は、長野県考古学会会長をつとめ、在野で多くの考古学的業績をあげた故藤森栄一氏を記念して同考古学会が設けている賞です。

片山氏は出身地である金谷から出土した奈良時代の鏡のルーツを求めて、同時代の鏡をつぶさに実見するため、全国各地を訪ね、また、先学者の指導を受け、十年間にわたる研究の集大成を八冊の著書にまとめられました。一つのテーマを持って地道な研究を積み重ねることにより、研究者として優れた業績をあげた藤森氏の学問の道に通じるとして、全国推薦委員の審査の結果、全会一致で受賞者に決定したそうです。考古学の最高の権威ある賞を受けた片山氏の研究は、鏡に留まらず本誌でも紹介した梵鐘・喚鐘など幅広い分野で今後も休むことなく続けられるでしょう。

# 事務局だより

研修部　織金

第一回ミニ研修旅行

「伊吹山のお花畑散策」

従来から年二回の研修旅行を行っているところですが、春の研修旅行の際に皆様にお知らせしたとおり、第一回目のミニ研修旅行は去る七月二十三日、参加者十一名にて「伊吹山のお花畑散策」を行いました。

当日は好天に恵まれ、緑に栄えた伊吹の山並みを背景に今を盛りとする山頂付近のお花畑を楽しみました。

山崎郷土研究会も地球環境の大切さを考えた未来型の郷土づくりと会の活性化を図ることを目的として平成十四年以降も引き続き自然観察的なミニ旅行を毎年実行します。

実施時期　毎年七月下旬

交通手段　ＪＲ（青春18きっぷ）利用

会　　費　五千円程度

目 的 地　第一回目（平成十三年）伊吹山

第二回目（平成十四年）草津市

―水生植物と淡水魚

第三回目（平成十五年）

―湿原のお花畑

第四回目（平成十六年）新規に考えます。